

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
公的扶助		必修 (社・精) 選択 (心)	2	2.3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
樋川 隆	講師控室	kyoumu		授業終了後に質問等受付	
授業の目的・概要	<p>(目的) 生活保護制度の歴史的経過、意義、内容を理解する。また、生活困窮者自立支援制度など、貧困者に対する諸制度について理解する。</p> <p>(概要) わが国の最後のセーフティネットである生活保護制度が、社会保障制度の根幹として成立してきた歴史的経過や意義、救貧対策の手前に対応する生活困窮者自立支援制度など貧困者対策の諸制度について課題学習、同時双方型授業を行う。リアクションペーパーの活用による問題解決や意見交換等を行い各授業時間の理解を深める。</p>				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中またはオフィスアワーで受付ける。				
教科書	低所得者に対する支援と生活保護制度 (新・社会福祉士養成講座 16) 編集：社会福祉士養成講座編集委員会 出版社：中央法規出版 随時応じプリントを配付する。				
参考書	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	貧困の概念、公的扶助の歴史的経過を理解し説明することができる。			HSU(2)(4) 社・精	
②	生活保護制度の原理、原則、制度実施の実際を理解し説明することができる。			HSU(2)(4) 社・精	
③	生活困窮者自立支援制度の内容を理解し説明することができる。			HSU(2)(4) 社・精	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション：講義の進め方、講義の概略 公的扶助の概念と範囲について学習する。 フィードバック、意見交換は課題返却時に行う。	課題送付・提出・ フィードバック	公的扶助と私的扶助の違い、防貧 対策と救貧対策についてまとめる。		4
2	公的扶助の意義と役割について学習する。 フィードバック、意見交換は課題返却時に行う。	課題送付・提出・ フィードバック	所得の再配分と最低賃金、わが国 のセーフティネットについてまとめる。		4
3	貧困と低所得者層と社会的排除について学習する。 フィードバック、意見交換は課題返却時に行う。	課題送付・提出・ フィードバック	絶対的貧困と相対的貧困について まとめる。		4
4	公的扶助の歴史 イギリスと日本の公的扶助の歴史について学習する。 フィードバック、意見交換は課題返却時に行う。	課題送付・提出・ フィードバック	ベヴァリッジ報告と日本の恤救 規則、救護法の課題をまとめる。		4
5	生活保護法の成立と展開、低所得者対策の動向について学習する。 フィードバック、意見交換は課題返却時に行う。	課題送付・提出・ フィードバック	旧生活保護法と現行生活保護法 の違いをまとめる。教科書の生活 困窮者支援対策を読む。		4
6	生活保護法の原理を学習する フィードバック、意見交換は課題返却時に行う。	課題送付・提出・ フィードバック	生活保護法の原理をまとめる。		4
7	生活保護法の原則を学習する。	課題送付・提出・ フィードバック	生活保護法の原則をまとめる。		4
8	扶助の種類と内容、方法を学習する。	同時双方型授業	扶助の種類の内容と方法をまとめる		4
9	被保護者の権利と義務、不服申し立てを学習する。	同時双方型授業	被保護者の権利と義務、行政訴訟 についてまとめる。		4
10	生活保護制度に関係する重要判例を学習する。	同時双方型授業	朝日訴訟等判例を調べ、ノートに まとめる。資料を再読する。		4
11	生活保護制度の実施体制、保護の種類等を学習する。 最低生活費の算定方法を学習する。	同時双方型授業	最低生活費の算出方法を、ノート にまとめる。		4
12	生活困窮者自立支援制度を学習する。	同時双方型授業	制度の概要をまとめる。		4
13	社会手当、生活福祉資金貸付制度等を学習する。	同時双方型授業	生活困窮者に対する経済的支援 をまとめる。		4
14	貧困者等に対する相談援助活動を学習する。	同時双方型授業	ソーシャルワークの流れをまとめる。		4
15	自立を考えまとめる学習をする	同時双方型授業	自立の意味をまとめる。		4

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

試		定期試験						
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		90	0	0	0	10	100	
総合力指標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70	
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5	
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	5	15	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	筆記試験で評価を行う。 試験では行動目標に関する基本的な知識を中心に確認する。				試験の評価と解説を配付する。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	課題授業での提出物、同時双方向授業における討論参加状況等について評価を行う。 自分の意見をもって積極的に参加すること。				課題についての解説を配付する。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p> <p>生活保護制度は、わが国の社会保障制度の根幹であり、最後のセーフティネットでもある。医療・福祉現場で貧困問題を背景にした事例に遭遇する確率は非常に高い。それだけに十分学習を深めてもらいたい。また、授業中の討論に積極的に参加し、現代社会の大きな課題に積極的に取り組む意思を醸成して欲しい。</p> <p>新たなセーフティネットである生活困窮者自立支援制度についても積極的に学んで欲しい。</p> <p>教科書を中心に授業を行うため、毎週の授業の該当箇所を熟読して欲しい。</p> <p>教員の実務経験： 山梨県庁社会福祉専門職として社会福祉行政一般、生活保護行政、児童福祉行政、障害福祉行政の実務経験。</p>								